

燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョン（H27～R1）の評価等について

燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョン（期間：H27～R1）が今年度で計画期間を終了することから、現行ビジョンに基づく具体的な取組と政策分野のK P I（重要業績成果指標）の達成状況を評価するとともに、第2期燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョン（期間：R2～R6）への方向性を示します。

1 燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョン（H27～R1）K P I 達成状況の評価

評価	評価の説明	評価の基準 目標達成率	連携する政策分野のK P I			
			①生活機能の強化		②結びつきやネットワークの強化	③圏域マネジメント能力の強化
			医療・福祉	産業振興	地域公共交通	中心市等における人材の育成
◎	達成	100%以上	1	3	1	2
○	概ね達成	90%～100%未満			1	
△	基準値より改善	90%未満	1			1
▼	改善を要する	基準値未満		1		

2 政策分野別取組の実施状況と KPI の評価

(1) 生活機能の強化

①医療・福祉（地域医療・福祉の環境整備）

【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価	次期ビジョン 方向性
病児・病後児保育事業	圏域全体として保護者の就労を支援するとともに、安心して子育てできる環境の充実に図られる。	本事業は、年々登録者数が増え、毎年 700 人以上の利用がありニーズが高く、保護者の子育てと就労の両立を支援するためにも重要であることから、引き続き推進する。	継続
新潟大学「消化器疾患予防医学 開発講座」設置事業 (R1 追加事業)	次世代検診モデルの構築による消化器疾患の早期発見、早期治療対策の研究による地域の検診体制の強化が図られる。	R1 からの事業であり、慢性肝疾患の早期発見・早期治療対策や、大腸内視鏡検診について研究が行われている。 燕市保健センター職員との懇談会も実施され、圏域住民の消化器疾患における課題や方向性が明確になることで、地域の検診体制の強化に繋がり、研究による医師の養成が図られることで、安心な医療の提供が期待できる。	継続

【KPI 達成状況と評価】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R1 見込	目標値 (R1)	達成率 (評価)
病児・病後児保育事業の登録者数	561 人 (H27)	1,158 人	1,390 人	1,585 人	1,793 人	2,000 人	89.6% (△)
県立吉田病院消化器内科医師数 (R1 追加KPI)	4 人 (H30)	-	-	-	4 人	4 人	100% (◎)

●圏域住民が安心して医療・福祉サービスを楽しむためにも、病児・病後児保育事業及び圏域医師確保のための事業は重要であり、次期ビジョンにおいても継続して実施する。現状で未達成の見込みである「病児・病後保育事業登録者数」は、出生数の減少傾向を見込んだ目標値へ修正を行い、引き続き事業の周知に努める。

また、圏域における介護人材の確保を目的に、資格取得に対する補助や、長期勤続職員の表彰等により介護職員の定着を図る事業を実施していることから、次期ビジョンへの掲載を検討する。

②産業振興（広域観光の促進）

【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価	次期ビジョン 方向性
観光エリア魅力アップ促進事業			
首都圏等観光PR事業	マスコミや旅行関係者に圏域の観光資源を直接提供することで、新たな旅行商品が造成され、首都圏からの誘客増加や新たな客層の発掘が図られる	燕・弥彦広域観光連携会議の事業として、首都圏等への観光プロモーション、インバウンド事業、観光商談会などのイベント等への出展を行っている。 圏域への誘客に有効な事業であり、引き続き事業を実施していく。	継続
受入体制整備事業	圏域を訪れる観光客の滞在時間の増加やリピーター率の増加などにより、地域住民と観光客の交流の場の拡大が図られる。	観光ナビゲータは利用団体から喜ばれており、燕市産業観光の振興に大きく寄与している。今後もさらに、各種観光イベントの企画運営を強化拡充するとともに、観光客や団体視察などの受入体制を充実させるため、引き続き実施する。	継続
2次交通整備事業		観光タクシーゴールデンルート号を4コースで運行しており、利用者も300人を超え大変喜ばれている。今後も引き続き実施していくとともに、新規コースの検討を行う。	継続
道の駅国上整備事業		H27年にトイレ棟、H28年に食堂棟とふれあい交流センターの改修工事を実施し、H29年4月よりリニューアルオープン。来館者数は増加し、目標値を大幅に超えている。 現行ビジョンで整備事業が終了したため、今後は継続した来館者数の増加に向けて取り組む。	終了
観光エリアマップ等作成事業		燕・弥彦広域観光連携会議の事業として、観光PR用DVDを県内外観光施設や旅行エージェントへ配布するとともに、観光PRポスター、パンフレットを首都圏等観光PRイベントに活用している。圏域への観光客誘致に有効な事業であるため引き続き実施する。	継続

取組事業	期待される効果	事業成果・評価	次期ビジョン 方向性
観光エリア魅力アップ促進事業（続き）			
燕・弥彦コラボ企画 事業	圏域の魅力である産業観光と弥彦温泉が連携することにより、観光客の増加とともに、地域経済の活性化が図られる。	弥彦温泉旅館組合加盟旅館へオリジナルビアカップの貸与を行い、利用者へのアンケート結果は概ね好評である。H30年から必要経費が発生していないことから、ビジョンへの掲載を終了する。	終了
県央大橋西詰周辺地域整備事業	地域内外から人を集める集客事業を核とする観光交流拠点を整備することにより、交流・応援人口の拡大とともに、地域経済の活性化が図られる。	観光交流拠点となる燕市産業史料館は、展示内容を含む本館の改装、体験工房館新設、体験メニューの拡充等リノベーション事業を行い、H31年4月にリニューアルオープンした。現行ビジョンでの整備事業が終了したため、今後は圏域全体の観光客入込数の増加に向けて取り組む。	終了

【KPI達成状況】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R1 見込	目標値 (R1)	達成率 (評価)
燕市及び弥彦村の観光入込客数 (暦年)	3,245,668 人 (H27)	3,100,090 人	3,038,256 人	3,332,034 人	3,532,661 人	3,470,000 人	101.8% (◎)
2次交通整備事業の利用人数	168 人 (H27)	170 人	328 人	305 人	320 人	300 人	106.6% (◎)
道の駅国上乗車者数	107,020 人 (H27)	106,521 人	157,008 人	182,828 人	183,000 人	128,000 人	142.9% (◎)
弥彦温泉における宿泊数	99,531 泊 (H27)	94,476 泊	94,383 泊	88,193 泊	87,402 泊	100,000 泊	87.4% (▼)

●観光エリア魅力アップ事業では、各細事業の複合的効果から観光客入込数等は増加しているが、弥彦温泉の宿泊数は、目標としていた基準値の維持を下回る結果となった。

次期ビジョンの取組みは、現行の細事業の継続を基本に、観光情報を効果的に発信するための観光協会運営事業に対する支援と、「道の駅国上」や「おもてなし広場」等の観光複合施設の管理運営事業を次期ビジョンに追加することで、さらなる誘客と広域観光を推進する。

また、産業観光の振興の効果を測る視点として、「産業観光の視察受け入れ人数」を新たに KPI として設定するとともに、「弥彦温泉における宿泊数」の目標値は、宿泊数が減少傾向であるが、連携事業により現状より回復させる事を目標として修正する。

(2) 結びつきやネットワークの強化

①地域公共交通（地域公共交通ネットワークの構築）

【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価	次期ビジョン 方向性
燕・弥彦地域公共交通網 形成計画策定事業 (H30 追加事業)	人口減少・高齢化社会の進展に伴い、公共交通に頼らざるを得ない人に対し、公共交通サービスの向上を図ることにより、圏域内外の交流人口の拡大、人々の活動促進に繋がる利便性が図られる。	燕・弥彦地域公共交通会議で協議を重ね、圏域内の公共交通の方針である「燕・弥彦地域公共交通網形成計画」を策定した。計画の策定が完了したことから、事業としては終了するが、再度計画期間が終了する際には、ビジョンへの掲載を検討する。	終了
広域循環バス運行事業	生活交通路線の維持拡充により、高齢者や学生など自動車を運転できない住民の通院や通学など生活に必要な交通手段が確保され、圏域住民の利便性が図られる。	「やひこ号」はH27年の運行開始から順調に利用者が増加している。「スワロー号」はR1年8月から燕市のイベント開催に合わせた休日運行の社会実験を行うなど、利便性の向上にむけて検討を進めている。引き続き住民のニーズを把握し、利用者の利便性に配慮した効率的・効果的な運行形態を検討する。	継続
予約制乗合ワゴン車 運行拡大事業		広報での記事掲載などで利用促進に努め、両市村による利用者也安定して推移している。引き続き住民のニーズを把握し、利用者の利便性に配慮した効率的・効果的な運行形態を検討する。	継続

【KPI達成状況】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R1 見込	目標値 (R1)	達成率 (評価)
広域循環バス運行事業の 年間利用者数	15,400 人 (H27)	17,114 人	18,533 人	19,715 人	20,294 人	20,000 人	101.4% (◎)
予約制乗合ワゴン車の 年間利用者数	36,953 人 (H27)	36,610 人	37,274 人	38,652 人	37,530 人	40,000 人	93.8% (○)

●広域循環バス運行事業の年間利用者数は、目標値を達成する見込みである。また、予約制乗合ワゴン車の年間利用者数も目標値には届かない見込みではあるが、毎年度安定した利用実績がある。

次期ビジョンでは、公共交通網形成計画に基づく運行の効果として、やひこ号にスワロー号の利用者数を含めた KPI とする。また、今後高齢化社会の進展に伴い公共交通利用者が増加すると見込まれる中、生活交通路線の維持確保を図るためにも、燕・弥彦地域公共交通網形成計画に基づきながら、圏域住民のニーズの把握により効果的な運行を目指す。

(3) 圏域マネジメント能力の強化

① 中心市等における人材の育成（圏域職員の育成、外部人材の確保）

【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価	次期ビジョン 方向性
職員合同研修事業	職員の資質、能力向上を図るとともに、職員間のネットワーク構築と連携強化が図られる。	実務データ分析研修や接遇力向上研修を中心に計画的に実施しており、職員の資質向上と圏域内職員の交流に寄与している。職員力や課題分析能力等の更なる向上のためにも、参加者の増加を図りながら引き続き実施する。	継続
外部人材活用事業	専門的な知識等を有する人材を積極的に活用することにより、地域の活性化が図られる。	外部人材を任期付職員として採用し、民間企業や他団体等で長年培った知識や経験を活かした専門的業務に従事している。国の財政措置の対象となる全国的に活躍する人材の招へいまでには至っていない。引き続き財政措置の活用も検討し事業を継続する。	継続

【KPI達成状況】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R1 見込	目標値 (R1)	達成率 (評価)
来庁者満足度	81.1% (H27)	83.5%	87.2%	83.5%	83.8%	83.50%	100.3% (◎)
合同研修の参加延べ人数 (期間中の累計)	195 人 (H27)	320 人	495 人	570 人	646 人	995 人	64.9% (△)
外部人材職員の招へい数 (期間中の累計)	2 人 (H27)	4 人	4 人	5 人	6 人	5 人	120.0% (◎)

●職員合同研修事業では、接遇力向上研修による高い来庁者満足度として効果が表れている。引き続き、研修参加者の増加に努めることはもちろん、多様化する行政課題に対応できる職員を養成するため、「合同研修メニュー数」をKPIに変更する。

また、高度化する行政課題に対応するための外部人材の積極的な活用は、その知識や経験が内部職員の人材育成にも有用であるため継続して取り組む。